

令和4年8月8日

令和4年度第5回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

令和4年度第5回教育委員会定例会会議録

日時 令和4年8月8日（月）
13時15分～14時30分

場所 教育委員会室

出席者

東條 教 育 長
島津 委 員
原之園 委 員
堀江 委 員
馬場 委 員

(事務局職員)

森 副 教 育 長
黒木 教 育 次 長 兼 生 徒 指 導 総 括 監
木場 教 育 次 長 兼 総 務 福 利 課 長
宮田 教 職 員 課 長
加藤 義 務 教 育 課 長
紺屋 高 校 教 育 課 長
貴島 高 校 教 育 課 参 事
内園 高 校 教 育 課 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 推 進 室 長
川上 総 務 福 利 課 企 画 監
波之平 総 務 福 利 課 長 補 佐

議 決 事 項

件 名	提 案 理 由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 教育職員免許状に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p>	<p>教育職員免許法の一部改正に伴い、所要の改正をしようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第2号 教育職員免許状の有効期限の更新等に関する規則を廃止する規則の制定について</p>	<p>教育職員免許法の一部改正に伴い、規則を廃止しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第3号 令和4年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）の決定について</p>	<p>令和4年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）を決定しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>決 定</p>
<p>議案第4号 学校職員の懲戒処分について</p>	<p>学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>決 定</p>

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第3号及び議案第4号については、非公開で審議する旨教育長から発議があり、全会一致で議決された。

3 令和4年度第4回教育委員会定例会会議録について

令和4年度第4回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

4 議案

議案第1号 教育職員免許状に関する規則の一部を改正する規則の制定について

- － 教育職員免許法の一部改正に伴い、所要の改正をしようとする事について －

〈教職員課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 今回の改正は、教員のなり手不足の解消の点から言うと、潜在的な有資格者を掘り起こすことにつながり、かなり期待されるものであると思う。結果的に、潜在的な教員をどのように掘り起こすのか、どのくらい期待できるのか、どのように教員不足の解消につなげていくのかについて、何かお考えがあれば教えていただきたい。

(教職員課長) 教員免許を持った方々については、毎年2,000人を超える授与者がいるが、免許状を授与した後に県外に転出したり、県外で取得した方が、鹿児島県に転入したりということがあり、免許保有者の把握はなかなか難しい。

ホームページや街頭で、免許法が改正されたことを周知し、更新制度がなくなったことを広く県民にお伝えしながら、教員免許を持っている潜在的な方々に理解していただきたいと思っている。

(島津委員) 県内で潜在的な教員はどのくらいいるのかを想定しているのか。

(教職員課長) 数字的なところまでは、見込みを立てていない。

(島津委員) ある程度見込みを想定した上で取り組んだ方が、一方的に情報提供や広報活動をして動きを待つということよりも効果的だと思うため、お考えになった方がいいと思う。

(教職員課長) 御指摘のことを踏まえて、対応を考えてまいりたい。

(原之園委員) 更新制度廃止後の教員に対する新しい研修制度のスケジュール

はどうなるのか。令和5年4月1日から新しい研修が始まるのか。
また、研修内容について今求められているのは、特別支援教育への理解を深めることやその対応、ICTの活用等の研修であると思う。教員が研修にも参加しながら、子供たちと向き合う時間をとることが大事であると思う。今後の方向性をお示しいただきたい。

(義務教育課長) 8月中旬に国から研修に関するガイドラインや指針の改定案が示される予定である。それを踏まえ、令和5年4月1日からの新制度に向けて体制を整えていきたい。

具体的に、教員の育成指標というものを作っているが、それを改正すること、国から示されているガイドライン案においては、特別支援教育とICTについて新しく指針が示されているため、しっかりと整理していきたい。併せて、研修の中身についても総合教育センターと連携して決めていきたい。

また、免許更新講習がなくなり、基本的には教員が自主的に研修を選んでいくことになるが、管理職と対話をして、教員を育成しながら研修を受けていくというふうなスキームになっている。研修履歴を記録することが法律で定められており、何をどこまで記録するかについては県教育委員会の判断に委ねられている。国のガイドラインを見ながら、どのような研修を記録するのかを、学校側の負担にならないように留意しつつ、対応していきたいと考えている。

(島津委員) 研修履歴のシステムは、鹿児島県も総合教育センターが開発しているが、国の方向性とはあうのか。

(義務教育課長) 総合教育センターが作成している研修履歴ファイル(T-TRASTE)の活用の仕方については、法令に基づき、各教員が受講した研修について、任命権者である我々がしっかりと管理する仕組みになっている。ただしT-TRASTEは、基本的にエクセルのファイルになっているため、全教員のエクセルファイルを県で集約することになるという負担が生じる。

今、国で一括して研修履歴を管理するシステムを来年度後半に構築する予定である。このような国のシステムに沿って進めていくことを見据えつつ、令和5年4月1日からT-TRASTEを使いながら状況を見て判断していきたいと考えている。

(馬場委員) 先日行われた、アミュプラザでの広報活動の反応はどうだったのか。

(教職員課長) 7月にアミュプラザで広報活動を行ったが、教員免許をお持ちで相談に来た方が4名おり、その後採用申込みをされた方もいらっしゃった。またその翌日、県立図書館でも相談会を実施したが、10名が相談に来た。高校生、大学生を含めて教員を目指したいという方の相談や、教員免許をお持ちの方から具体的な相談があった。

(馬場委員) 今後も、相談窓口は継続的に設置するのか。

(教職員課長) 相談会は、今後も継続して行って参りたい。またポスター等で教職員課の連絡先を示しているため、電話等でも対応してまいりたい。今後、このような広報活動を通して、潜在的に教員免許をお持ちの方に少しでも理解していただけたらと思っている。

〈議決〉

(教育長) 異議がないので、議案第1号は原案のとおり議決する。

議案第2号 教育職員免許状の有効期限の更新等に関する規則を廃止する規則の制定について

- 一 教育職員免許法の一部改正に伴い、規則を廃止しようとするものについて 一

〈教職員課長が資料に沿って説明〉

〈質疑なし〉

〈議決〉

(教育長) 異議がないので、議案第2号は原案のとおり議決する。

5 その他

(1) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果（公立学校）について

- 一 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の概要、調査結果（速報）及び分析結果の公表スケジュール等について 一

〈義務教育課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 小学校は2年連続で全国平均を上回っており、これまでの取組の成果が確認された気がする。これまで皆さんが取り組んでいたことが間違っていなかったということが確認でき、大変喜んでいる。しかし、中学校がもうひと頑張りというところであるため、頑張っていたきたい。県内の学力について、鹿児島学習定着度調査があるが、それとの関連を見ることによりわかってくることもあると思うため、これからさらに検討していただき、学力の向上につなげていただきたい。

(義務教育課長) 学習定着度調査の結果も分析をしながらやっていきたい。例えば今回の中学校3年生の数学については、前回の学習定着度調査で、著しく数学が低かったかというところ全体ではそういった傾向が見られていないため、学習定着度調査の問題の質を少し見直していく必要があると考えている。方程式や変化の割合の問題等、根本的な意味をしっかりと理解させることが必要だということを申し上げているが、学習定着度調査の報告書で示された結果を見ると、実際はできていなかったため、繰り返し、授業を改善してい

く必要があると考えている。

(原之園委員) 1点目は、数学について今後継続的に指導をしていくとおっしゃっていたが、義務教育課が教育事務所を通して学校へ直接訪問していることが非常に大きな役割を果たしていると感じている。今後も継続してその計画は進められていくのか。

2点目は、児童生徒の生活の様子について、例えばインターネットの利用時間は何時間なのか、学習時間はどうなのか等、10月に詳しく公表されるのか。

(義務教育課長) 1点目について、学校訪問は市町村教育委員会と連携して進めていきたい。昨年度は100校程度学校訪問を行ったため、今年度も継続的に行いたい。昨年度の反省として、1回30分程度の訪問というケースもあったため、市町村教育委員会と連携を図りながら継続的に見届け、意味のある学校訪問にできるよう取り組んでいきたい。

2点目の調査項目については10月頃にしっかりと分析した上で集計していきたい。少しだけよかったと思ったところは、鹿児島県は「学校が楽しい」と答えている児童生徒の割合が大変高かったことである。一方で、自己肯定感という面で見ると、「自分には、よいところがあると思う」等の数値が全国と比較すると－7ポイントと少し低い。今後しっかりと分析していきたいと思っている。

〈質疑終了〉

(2) 令和5年度県立高等学校・県立特別支援学校・県立中学校使用教科書の採択結果について

－ 令和5年度県立高等学校・県立特別支援学校・県立中学校使用教科書の採択結果について －

〈高校教育課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 毎年の教科書採択について、昨年選んだ会社と異なる会社に変更する例はあるのか。

(高校教育課長) そのような例はある。対象学年や学校の実情に応じて教科書を採択するため、一度使って別の教科書に変更するということはある。

(島津委員) その状況での、教員の課題はあるのか。

(高校教育課長) 教科書採択を検討する段階で、各学校の教科担当内で吟味するため、戸惑い等はあまりないと聞いている。教科書が大きく変わったときは、これまでのものとの違いがあるため、自分たちの感覚を変えていかなければならないという認識はあると思う。

(原之園委員) 1, 2年生が使う教科書について, 社会科の地理歴史, 歴史総合は, 他校と同じような会社の教科書を使用した経験があるが, 今回, 公共については様々な会社に散らばっている感じがする。全体で特徴的なことは何かあるか。

(高校教育課長) 新学習指導要領で新しく改訂された「公共」については, 御指摘のとおり, 実教出版, 第一学習社, 数研出版等が多い状況である。全体的には, 科目の性質もあるが, 人間の社会のあり方について基本的に幅広い知識, 教養, 情報を広く網羅しているもの, 生徒に身近な具体例を利用しながら策定されているものという観点で選ばれているという特徴がある。

〈質疑終了〉

(3) 令和5年3月県内公立及び国立の中学校等卒業予定者の進路希望状況について

ー 令和5年3月県内公立及び国立の中学校等卒業予定者の進路希望状況調査の目的, 調査結果等について ー

〈高校教育課参事が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) ここ数年, 私立, 高専と県立, 公立学校等のバランスが崩れてきているように思う。私立, 高専等が増え, 県立, 公立学校の希望が減ってきている傾向が大変気になる。魅力ある県立学校づくりがまだまだ足りないと思うため, 頑張っていただきたい。

また, 農業高校については残念ながら2年間減少傾向である。一方で工業や商業の希望が増えてきているため, 農工連携, 農商連携も含めて考えることによって, 魅力ある県立学校づくりが進められていくのではないかと思うが, どう考えているか。

(高校教育課参事) 中学校の卒業予定者数は, 14,000人台に突入している状況である。今まさに魅力ある県立学校づくりに取り組まなければいけないという状況で, 昨年度の懇話会の取りまとめを踏まえ, グループ化や遠隔授業について検討しているところである。

なかなか公立高校の希望者数が増えない状況であり, 広報活動の展開の仕方について, 私学に学ばなければならないことは, 痛感している。昨年度はPR事業として, 専門家による研修や, ガイドブックを作成して広報活動を展開した。まだ成果として出ていないが, 中学校3年生が実際に受験校を決めるのは, 12月頃であるため, そこに向けて各高校のパンフレットを一新するなど, 取り組んでいきたい。

また, 農業科がなかなか伸びない最大の要因は, 農業科の学びや農業という職業に対する魅力が中学生や保護者に伝わっていないという現状があることである。現在農業科では, 中学生へのPR活動はもちろんであるが, 小学生や幼稚園生を対象に体験学習を実施し, 農業の魅力を伝えているところである。

魅力ある県立学校づくりに向けた懇話会においても, 学科の枠

を超えた、様々な学科の組み合わせによるグループ化を検討しているのではないかとの意見があり、農業と工業の連携や農業と商業の連携も魅力化に繋がると考えているため、今後の具体的な検討につなげていきたい。

(原之園委員) 募集について、県立学校もそれぞれ頑張っておられると思う。頑張っている子供たちの姿が、世間の目によく触れるために、テレビでの中継や、新聞への掲載、ホームページでの発信、リーフレットやパンフレットの作成等、広報の方法をもっと見直す必要があると思う。

ぜひ広く県民の方々にも頑張っている姿を知っていただき、子供たちもその動きに感化され、公立高校の良さをわかり行ってみたいと思う気持ちになるかもしれない。

(馬場委員) 倍率については、人口減少や少子化が進んでおり、交通の利便性等にも差があるため、地域で格差があるのは仕方がないと思う。多くの学校があり、私立の学校にはない学校間の交流があるのが、公立学校の強みだと思う。高校は、入学してからも競争があるため、きちんと学べる環境づくりが大切である。

中学生の段階で将来の職業を考えるのはなかなか難しいと思うため、実際に農業をしている方がどのような仕事をしているのかを伝えることが良いと思う。可能性はまだあると思うため、魅力ある県立学校づくりを進めていただきたい。

(高校教育課参事) 委員がおっしゃったとおり、公立高校の使命である各地域において、可能な限り子供たちに様々な学びの選択肢を提供するということと、充足率が高まるということは、両立が非常に困難な状況にある。その中でも各地域において様々な学びの選択肢を提供するために、グループ化等を検討していきたい。私立は各法人ごとであるが、県立高校は61校あるため、連携することは強みであると思う。また、実際に企業の方々から話を聞くことも重要であるため、企業との連携についても検討を進めていきたい。

〈質疑終了〉

(4) 第47回全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）活動状況報告について

－ 第47回全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）の活動状況について －

〈全国高等学校総合文化祭推進室長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(島津委員) 東京に行った生徒の、決意や覚悟があれば教えていただきたい。

(全国総文祭室長) 高校生にその場で意見を聞いたのだが、首都圏開催であったため、ミュージカル等の素晴らしさ、会場の大きさに圧倒されていた。私たちも東京に負けない大会にしていきたいと覚悟を決めて

いるようである。

(原之園委員) 来年がどうなるかわからないが、暑さやコロナウイルス感染症の対策をしっかりと講じて、是非頑張っていたきたい。

〈質疑終了〉

4 議案

議案第3号 令和4年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）の決定について
（非公開）

議案第4号 学校職員の懲戒処分について
（非公開）

5 閉会